

法人・学会・民間

研究機関・学会 公益法人など ライフライン ボランティア 企業・関連団体 その他の組織・海外

防災情報新聞 無料版TOP 法人・学会・民間TOP 企業関連団体TOP

「第19回「震災対策技術展 横浜」」 激化する災害に対抗、進化する防災技術・ソフト

企業関連団体

「第19回「震災対策技術展 横浜」」 激化する災害に対抗、進化する防災技術・ソフト

第19回「震災対策技術展 横浜」(主催:「震災対策技術展」横浜 実行委員会、事務局:エグジビションテクノロジーズ株式会社、同時開催:第6回「振動技術展」)が去る2月5日～6日、パシフィコ横浜で開催され、企業、国・自治体、研究機関、NPO法人など約220団体が出展した。

同展は、「阪神・淡路大震災」を機に1997年にわが国で初めて神戸と横浜で開催されて以降、毎年開催される本格的な自然災害対策技術展として知られる。

初日は関東地方に雪の予報が発表されたが、出足にはぶることなく、展示・セミナー会場いずれも盛況で、延べ来場者数(2日間)は1万5000人余(主催者速報)となった。

展示会場では地震をはじめ自然災害を中心に、防災・減災に向けた最新技術・製品が出展。なかでもスマートフォンの普及で開発が相次ぐ災害対応アプリの特設会場が今後の「防災情報」の方向性を示唆するものとして注目を集めていた。

(株)キョードセンターが「見える防災」をキーワードにAR(拡張現実)技術を活用してスマートフォンで撮影した実際の風景に水害時の水位を合成表示させるアプリを展示したほか、「Tissue+design」(社団法人)の自分が現在いる場所に津波がどの程度の高さで、何分まで到達するかを知ることができるウェブサービス「神戸市津波防災ウェブサービス ココクル?」など、避難先・安全(リスク)情報を即座に確認できるアプリや端末の衛星利用測位システム(GPS)を利用した全国対応の防災情報サービスなどを競っていた。

また、高知県が特設ブースを設置したほか、大分県の(株)インパクトがソーラー発電システム+LED+蓄光併用で常時100mcd/m²～3000mcd/m²の明るさを調整設定維持できる「ソーラー式LED併用型無電源蓄光看板」を、長野市の(株)信防エディックスは体育館など大空間避難所内で安心できる空間を確保できる簡単組み立て用テント「ひなんルーム(1人用・2人用)」、愛知県豊川市の豊川鋼機(株)は津波警報等の信号を受信し煙と光が緊急性を表示、「ここに避難してください」という音声で避難情報を伝える「のろしガルル」を展示するなど、地方発のユニークなアイデア製品も目立った。

セミナー会場も、東日本大震災、阪神・淡路大震災20年の教訓から、懸念される南海トラフ巨大地震、首都直下地震、富士山噴火など大規模災害、また災害食、豪雨対策など今後の災害対策の重要なテーマをそろえ、聴講者を集めた。

「震災対策技術展」の今後の開催予定は、第2回「震災対策技術展」大阪が2015年6月4日～5日(梅田 グランフロント大阪)、第6回「震災対策技術展」宮城が2015年8月6日～7日(仙台 AERビル)、そして第20回「震災対策技術展」横浜が2016年2月4日～5日(パシフィコ横浜)となっている。

「第19回「震災対策技術展 横浜」」

「2015.02.16. by Bosai Plus」



キョードセンター「AR」ハザードスコアシリーズよりAR想定浸水表示例(写真はクリックで拡大)



(上)高知県のアクアデザインシステム(株)による「自走式アクアディセル」。どこでも移動できるキャタピラ付きの3ウェイ浄水器。海水から大量の飲料水をつくるだけでなく、自走して原本まで移動可能。ガソリン+LPガス+2相交流電圧の3WAY式。(下)神戸市(株)シャルレは、初の災害対策用「エマーゼンショー・インナー・ショー」(防災要品等推廣品認定)を展示(写真はクリックで拡大)

記事検索

初めての方へ 本サイトの内容・活用について

QUBE 電源をつないでほぼ充電できる「簡易UPS」機能搭載! スタイルッシュ ポータブルバッテリー

The防災チャンネル 「防災えんすTV」 「ぼうさいホット」に「e-ア」 「ペット防災会談」他を配信中! いわしの和風リゾート

身近な防災資機材から大規模な防災関連システムまで WEB防災見本市

最新の防災情報を声でお届け ポッドキャスト 伊藤和明の防災えんす

防災カレンダー 2月24日(水)の防災イベント開催! 防災イベントカレンダー

Bosai Plus 2月2日(水)24号発行:毎号印刷枚数2400頁

特別連載企画 非常食 備蓄計画 発進!

災害に立ち向う人のために Rescue foods ホリカフーズ

秋・冬の第2波警報! 新型インフルエンザ情報

7月2日 初期発動…… 防災情報新聞 特設サイト 東京マグニチュード8.0

Corporation, academy, private organization 法人・学会・民間

また、高知県が特設ブースを設置したほか、大分県の(株)インパクトがソーラー発電システム+LED+蓄光併用で常時100mcd/m²～3000mcd/m²の明るさを調整設定維持できる「ソーラー式LED併用型無電源蓄光看板」を、長野市の(株)信防エディックスは体育館など大空間避難所内で安心できる空間を確保できる簡単組み立て用テント「ひなんルーム(1人